

テレビ放映のご案内

FBS 福岡放送局の番組で「頑張るキミに花束を！」の第6弾の放映日が決定しました。
今回の番組内容は1月21日に「福太郎めんべい」女子ソフトボール部員の指導を受け稽古を重ね、本番に向けた日々の練習の様子が放映されます。今回も前回に引き続き是非ご覧になって下さい。

★第6弾放映：3月24日（金） 19：00～



絶品！オイスカのお米！！



オイスカ会員の皆様

昨年の10月に収穫したお米が美味しくてたまりません！ 研修生もモリモリ食べてますが、是非皆さまにもお試し頂ければと考えております。

昭和3年の昭和天皇陛下御即位の際に献上米として選ばれた主基祭田があるこの脇山地区で栽培したお米です。今回、夏の好天で豊作となり、会員の皆様に広く販売させていただきます。この機会にお試し下さいませ。（量に限りがあるので、不足の場合はご了承下さいませ）

【販売・ご注文方法】

- 品 種：げんきつくし、ひのひかり（減農薬、有機栽培）
- 価 格：400円／1キログラム（白米） ※オイスカ会員様特別価格
※ご注文は5kgから受付いたします。
※配送が必要な場合は、別途配送料がかかります。（宅急便等を利用）
- 注文方法：オイスカ西日本研修センターまでご連絡下さいませ。

担当：立石

TEL：092-803-0311

Fax：092-803-0322

ミャンマーOB調査報告

2月6日～12日にかけて、東峰村在住のオイスカ会員である坂本さんと共にミャンマーOB研修生の活動調査に行ってきました。最初の2日間はパコック県にあるオイスカ研修センターで活躍しているOBへのインタビューと活動現場の見学、そしてWFPやマイクロファイナンスなどで支援を実施している農村地域における活動現場の視察に行きました。研修センターで活躍しているスタッフは30名程度で、そのうち16名が訪日OB研修生となっています。彼らの業務は研修センターにおける有機農業や食品加工研修の指導だけでなく、100を超える農村地域でWFPやマイクロファイナンスの活動を展開しながら、道路の補修やミニダム、用水路づくりの支援を行っています。「村人のため、オイスカのために頑張りたい」という強い気持ちを持ったスタッフが多く、彼らの思いとチームワークによりミャンマー政府や国連機関から高い評価を得ています。

後半の2日間は、パコックのセンターから車で5時間ほど北東部に行ったピンウーリンという高冷地の町を訪問し、そこで2名のOB研修生が活躍する現場の視察とインタビューを実施しました。そして、昼食をとったあとは更に車で6時間南に移動したシャン州タウンジーという町で6名OBの調査を行いました。どちらの地域も標高1000メートル以上の高冷地で、農業が盛んな地域でもあり、農業関連の日系の企業が多く進出しています。その中でOB研修生もステビアの栽培やハーブの栽培を行っている企業の農場の運営責任者として、農家の生活が少しでも良くなるように、栽培普及指導を進めていました。今回のOB調査を通じて感じた事は、OB研修生の殆どが「お金を稼ぐためだけでなく、貧しい農家のために働きたい」という強い思いを持って活動している事、日本で学んだその気持ちを大切にしている事に感動を覚えました。そして、ミャンマーにおけるオイスカの活動は、まさにミャンマーの農村地域の発展に大きく貢献していく事を確信しました。(豊田)

オイスカミャン
マー研修セン
ターのOBスタ
ッフ→



ピンウーリンで活
躍しているOB研
修生ス(政府の
職員として農家へ
有機農業の普及
活動をしている)→



西原村農家応援団(熊本復興支援ボランティア)

2/15(水)に昨年の12月に続き今年初めての草刈りボランティアへ行きました。外部研修などもあり研修生全員では行きませんが、職員と併せて9名。しかし今回は力強い味方も加わりました。草刈り機メーカーの株式会社オーレック様より4名の社員が自走式に草刈り機と畔草刈り用の草刈り機を持ってきていただきました。晴天にも恵まれ研修生も慣れたもので、その草刈りの速さに地元の方も驚かされていました。午前中には、予定の場所をほとんど終え、午後からは震災後全く手がつけられていなかったであろう場所の草刈りで、さすがに大変でしたがきれいに予定以上の草刈りができました。今後も月に一度程度での活動が続きますが、これまで守られてきた棚田や里山の風景が一日でも早く戻る日を願います。(彦坂)



熊本県玉名農業教育振興懇話会学習会

1月の初めにオイスカ本部を通しご連絡を頂き、玉名農業教育振興懇話会から15名の方々がセンターを訪問されました。目的は、東南アジアの農業について、また日本で研修生がどのような研修を行っているかを学ぶために来所されました。毎年この時期に勉強会を行っているようですが、今年は担当者の方が昨年放送された「YOUは、何しに日本へ!？」を見て直接海外の研修生たちと触れ合いたいと尋ねられてきました。参加者のほとんどがオイスカを知らない方ばかりでしたが研修生たちから直接国の様子やセンターでの研修の様子を聞いて短い時間でしたが有意義な学習会となったと思います。昨年のテレビ放送がいろんな形で多くの方に見ていただけたのを改めて感じました。(彦坂)

